おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ー楽しんだキャッチボールー　　NO．70

　もうずいぶん、誰かと真剣にキャッチボールをしていません。近所でキャッチボールをしている姿もあまり見かけなくなりました。野球のグローブと軟球が子どもの持ち物の定番だった時代もありますが、今は野球チームに入っていないと、家にないかもしれませんね。
「いくよ」と声をかけ、「いいよ」と相手が構えるのを待って、取りやすいように“投げるーとる”を繰り返しているうちに、気持ちよくなってきたり、仲良しになってきたり。そのうち、お互いのリズムが出来上がってきて、ことばを交わさずともキャッチボールしあえるのが、とても楽しくなってきます。ちょっと誰かとやりたくなってきちゃいました。
　だいたい何の話か察しがついてきたでしょ。そう、子どもの姿を見ていく上で、“わかること、わかることば”が育つこと（言葉の理解）の育ちと、話せる言葉が増えること（言葉の表出）に目がいきがちですが、それと一緒に、いやその前に“人と向き合えるか”“やりとりができるか”は、大きなポイントになります。小さな子でも、少し大きくなった子でも、“キャッチボールが上手にできるように”は、どの子にも大切にしているテーマです。あんずだけでなく、幼稚園・保育所でも学校でも、それを目標にしていない場所はありません。「関係作り」とも言い換えられますが、人と一緒に過ごし生活していく上で、いちばん大事なことですね。
　まだお話できないからといって、キャッチボールが上手くできないわけではありません。ことば以外のキャッチボールはたくさんあります。『相手を見る』『働きかけを受け止める』『思いを伝える』『投げ返す』等ができるようになってくると、キャッチボールが少しずつ上手になってきます。やりとりを楽しめるようになります。お話ができる子でも、キャッチボールが苦手な子は少なくありません。ことばを育てることと同時に、ことばを交わさずとも、キャッチボールしあえる経験を重ねていくことが、とても大切になります。みんなの今の腕前はどうでしょう？
　もう３月ですので、今通っている場所の中で、お互いどんなボールを投げてくるのか、どこに投げれば取ってもらえるのかは、あうんの呼吸に近いものがあると思います。クラスの先生やお友達と「こう向き合えばいいんだよね」で安心安定してきたはずです。そして、そこをベースに、伝えたり受け止めたり、楽しんだり、教えてもらったり、分かち合ったりしながら、いろいろなことを経験し学んできたのです。それだけ考えても貴重な経験を重ねてきたことになりますね。しっかり足跡は残っていますね。
　そして春、また新たな出会いがあります。「あの人はどんなボールを投げてくるのかな？」「どう受け取ってくれるのかな？」とドキドキする自分に、「あの子はどんなボールを投げてくるかな？」「どんなボールを投げればいいかな？」と、同じようにドキドキする先生や新しい仲間達。お互いに、今までの経験を踏まえての探り合いですね。そこに役立つ“引継ぎ”を、あんずも大事にしています。お任せください。

　人の中で過ごし、人から学び、人に伝え、一緒に遊び、支え合い、喜怒哀楽を共にしていくのが生活ですね。相手とのキャッチボールは、そのすべての場面で活かされています。
　楽しんだキャッチボールを次に活かしていける春を、一緒に作っていきましょう。（R4．３）K